

有信会誌

No.57 2013

京都大学有信会

ごあいさつ	宮原 賢次	1
京大から世界へ		
国際法曹協会 (IBA) 会長を務めて	川村 明	4
JT のグローバル化体験を通じて	木村 宏	5
海外から見た日本法	松井 茂記	6
法律事務所の海外進出	山田 昭	7
アメリカにおける日本ビジネス	北川 リサ 美智子	8
Local to Global の志	泉田 裕彦	9
欧州での日々	村田 晋平	10
退職教員		
学部学生の頃	岡村 周一	12
エリート意識に支えられた強い人 —岡村周一先生ご退職に寄せて—	福重 さと子	14
定年を迎えて想うこと	林 信夫	16
林信夫先生のご退職に際して	佐々木 健	18
追悼		
猪木正道先生追悼	木村 雅昭	22
猪木正道先生を偲んで	戸部 良一	24
わたしの一冊		
定本 想像の共同体 ナショナリズムの起源と流行	上山 安敏	28
清風荘		
西園寺公望と清風荘	奈良岡 聰智	30
科学研究費助成事業の研究について		
「ポスト構造改革における市場と社会の新たな秩序形成 —自由と共同性の法システム—」	川濱 昇	34
企業特別講演会		
「企業特別講演会」の実施について	北村 雅史	38
有信会の活動報告		
学生委員活動報告	古川 智也	40
京大生ゆかりの老舗食堂	学生委員	41
支部会便り		
平成24年度有信会 東海支部総会・懇親会のご報告	中丸 隆	44
ゼミ会便り		
川又会便り	平田 千佳	48
ゼミ便り (阿部会)	小林 俊康	49
奥田会総会のご報告	江村 智禎	50
谷口会総会 (第18回) のご報告	津田 信一	51
位田隆一教授ご退職記念ゼミ会	濱本 正太郎	52
平成24年京都大学法学部百周年記念基金収支決算書		54
平成24年法学部学術交流基金執行状況		55
法学研究科・法学部教員一覧		56
ゼミ会連絡先一覧		57
有信会支部一覧		61
京都大学有信会会則		62
会費納入のお願い/会費自動払込の御案内		63
異動連絡のお願い		64
平成24年有信会収支決算報告書		65
平成24年有信会役員名簿		66
就職・進学状況一覧		67

アメリカにおける日本ビジネス

北川 リサ 美智子

(北川&イバート法律事務所弁護士 昭和61年修士課程修了)



私が京都大学の法学研究科を奇跡的に卒業してから既に27年が経ちました。北川善太郎教授は私の指導教官そして恩師であります。京都大学法学部の北川善太郎教授、奥田、谷口、川俣、道田各教授には激励して頂き辛抱強く助けて頂いたことを有難く感じております。そして、アメリカから来た外人弁護士の私の夢の達成のため親切に支えて頂いた同期の大学院生の皆様にも感謝しています。京都は永遠に私の心の故郷です。

2013年1月25日北川善太郎教授のご逝去の報に接し、深い悲しみで一杯です。まさに法律の巨匠、類稀な指導者でした。教授の設立された京都比較法研究センター及びコピーマート研究所(CMI)は海外の学者によるセミナー等を開催、国際法律に関する出版物を世に生み出しました。北川教授の著書の“Doing Business in Japan”(DBJ)は英語で大変明確且つ詳細に日本の法律を世界に広げた論文です。この著書には多くの教授、裁判官、弁護士そして学者の方々が携わり、私も編集に関るといって大変光栄な機会を頂きました。教授はハーバード、ミュンヘン、ワシントン、シカゴ等世界中の大学で教鞭を執られ、教え子は教授、裁判官、弁護士、政府首脳そして銀行や企業の重役等としてご活躍されております。心より北川善太郎教授のご冥福お祈り申し上げます。

アメリカの日系企業をサポートするビジネ

ス弁護士として過去31年、日米間ビジネス関係の浮き沈みを目撃して参りました。(www.japanuslaw.comより、全米に渡り私共がお手伝いしている著名日系企業のリストをご覧ください)

1980年代前半、多くのアメリカ人は日本は第二次世界大戦に破れ、ジャンクを生産している国と言っておりました。私は日本を信じて“日は又昇る”と答えました。日系企業は品質向上に努力を惜しまず、政府や民間企業が一体となり“Japan Inc.”(日本国会社)とも呼ばれました。

アメリカに帰国後、日系企業が米国ホテル、アイコン不動産を買収しアメリカへ進出してきたバブル時代を体験し、日本は“経済アニマル”として恐れられました。そしてアメリカでは“日本バッシング”が盛んになり、代わりに日本人はアメリカを“法律アニマル”と呼びました。

バブル崩壊後、多くの日系企業が不動産を清算しアメリカを去りました。日本は近年までの間、長年GNP世界第二位の地位に留まります。当時の帰国子女の方々は成人され、日米企業でご活躍されています。挑戦的なこの経済状況で将来への不安はありますが、日本の成功を導くアメリカ育ちの“新しい日本人”に期待しています。日が又昇ることが私の希望です。